

1 派遣期日 平成22年11月11日（木）

2 派遣先 学校名 東京都文京区立関口台町小学校
所在地 東京都文京区関口2丁目6番1号
<http://www1.tcn-catv.ne.jp/~sekidai-ps/>

3 研修内容

授業公開・研究発表

研究主題 自ら考える子どもの育成～算数科の表現する活動を通して～

（1）研究発表

問題解決学習への意欲をもちながらも、根拠を明らかにし筋道を立てて考えたり、考えを数学的な方法を用いて説明したりできる児童の育成のために「①学習課題の工夫②算数の表現活動における指導の工夫③評価の工夫」の3つの視点から授業研究を進めている。

①学習課題の工夫

〈課題を設定する視点〉

- 数学的に価値があるもの
- 児童の生活や学習に結び付くもの
- 算数にかかわる豊かな内容を含み、多様な考えを生み出すもの
- 解決の見通しが多数もてるもの
- 児童の多様な活動を生み出すもの
- 単元全体を見通せるもの

- ・子どもの目線で、日常事象から見つけた課題
- ・児童の実態に合っており、問題解決するのに望ましい課題

②算数の表現活動における指導の工夫

〈問題解決学習のサイクル〉

- I つかむ・・・課題をとらえ、解決の見通しを立てる。
- II 解決する・・・自力で解決する。
- III 伝え合う・・・解決したことを基に、説明し合ったり話し合ったりする。
- IV まとめる・・・解決の仕方や考え方をまとめる。
- V 広げる・・・学習を振り返り新しい問題や課題をとらえる。
生活の場面に広げる。

- ・児童一人一人の思考過程が見えるノート作り
- ・自分の考えを筋道立てて書く
考えを書く手段→算数の言葉（絵や図、数直線、式、言葉など）

③評価の工夫

- ・座席表による評価→単元ごとの評価に反映
授業中の思考・意欲・次時の学習の手だてを記入
- ・学習後の感想による自己評価、相互評価
- ・具体的な評価の基準の設定と指導の手だての工夫
必要に応じて、補習・家庭学習

(2) 公開授業

○第1学年「ひきざん」

単元目標 (11～18) から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、それを用いることができる。

○学習課題の工夫

児童が問題場面をとらえやすくするために、パネルシアターや ICT 機器を活用していた。単元を通して、「動物園」の場面から問題を設定し、ストーリー性を持たせることにより、児童が意欲的に問題解決に取り組むとともに、興味・関心が持続するように単元を見通しての工夫がされていた。

○算数の表現活動における指導の工夫

表現活動として、計算の仕方を考える自力解決の場面では、まず自分の考えをブロック操作や図などを用いて表現させていた。さらに、教師が「具体的な事象の世界(日常の場面)」と「抽象的な記号の世界(式)」を、意図的に算数の言葉を用いたり、黒板を区切って視覚的に見て分かるようにしたりして使い分け、繰り返し指導していた。

○評価の工夫

児童が、どのような操作活動をしているか、どのように解決しているか、どこでつまづいているかなどについて、記号などで座席表に記入して、形成的評価を行っていた。

4 感想

児童が課題を把握しやすいように、パネルシアターや ICT 機器を活用していた。ひきざんは絵を固定してあると、場面がとらえにくいので、動いたり(動かしたり)、実際に取り除けたりできる所がいいと思った。パネルシアターや ICT 機器を見た後に、児童の言葉で課題作りをしていることも新鮮だった。

1年生の学習だったが、1学期の単元「のこりはいくつ ちがいはいくつ」(10以内の減法計算の仕方)から見通しをもった指導を行っていた。そのため、ブロック操作を通して問題場面を表したり、ブロックの絵で、考え方をノートに書いたりする活動がどの子もできていた。学習の積み重ねで1年生でも自分なりの考えで表現できることを感じた。

指導案の中に評価基準の A 基準、B 基準を入れているだけでなく C 基準の児童を B 基準に引き上げるための手だても書いてあり、参考になった。